

昔、身分の高い人があった。この人は娘が生まれたとき、娘の行く末を占ってもらおうと思  
って、国中の賢者や占い師を呼び集めた。その人たちはいく度も相談を重ねてから、「亜麻の  
繊維がこの子に大きな禍わざわいをもたらすであろう。」と告げた。そこで父親は、なんとかして災  
難をまぬがれようと思い、「亜麻も大麻も麻の類は一切屋敷へ持ち込んでならぬ。」と厳しい  
命令を下した。ところがターリアが大きくなって、ある日窓辺に立っていると、外を糸つむぎ  
のおばあさんが通っていった。ターリアはそれまで糸巻き竿ざおや紡錘つむを見たことがなかったし、  
くるくる回るところがとても面白そうだったので、好奇心にかられておばあさん呼び入れ、  
糸巻き竿を手にとって糸をひき始めた。ところが運悪く麻の繊維が爪つめの間にささり、たちまち  
ターリアは床に倒れて死んでしまった。これを見ると老婆は階段を駆け下りて逃げていった。  
けれども哀れな父親は、事故を知らされると、この苦い飲み物を、樽一杯の涙を流して呑みほ  
した。それから死んだ娘をちょうどそのとき来ていた別荘の椅子に坐らせたが、その椅子には  
ビロードが張ってあり、金欄きんらんで作った天蓋てんがいがついていた。やがて父親は戸という戸をしめきる  
と、忌まわしい思い出をきれいさっぱり拭き取ってしまおうと思って、ひどい不幸に見舞われ  
た場所を去っていった。